

各 位

2020年3月23日
株式会社 山と溪谷社
<https://www.yamakei.co.jp/>

読みやすい言葉で語られるアイヌ文学の名著、待望の文庫化！
ヤマケイ文庫『アイヌと神々の物語』発刊

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：川崎深雪）は、ヤマケイ文庫『アイヌと神々の物語』（萱野茂／著）を発刊しました。



〔推薦の言葉〕

◎中川裕氏（「ゴールデンカムイ」アイヌ語監修、千葉大学文学部教授）

「ウウェペケレには、カムイ（自然、環境）との関わり方や生活の知恵がちりばめられ、人としてのあり方、心構えといったようなものについての教訓も含まれている。主人公の受ける苦難や試練、それを解決して幸福なエンディングにいたるドラマチックな展開に心躍らせ、長い冬の夜を心豊かに過ごせるような楽しみが詰まっている。」

◎河合隼雄氏（心理学者）

「『ウウェペケレ』は「昔話」そして「お互いの心が洗われる」ことを意味する。アイヌ研究者、民俗学者などはもちろん、人間の生死について深く考えようとする人々に広く推薦したい。」

〔本書の内容〕

アイヌ語研究の第一人者である故・萱野茂氏（第32回菊池寛賞受賞）が残した知られざる名著『カムイユカ

ラと昔話』(1988年刊・小学館)から、昔話(ウウエペケレ)を初めて抄録・文庫化。

著者は、幼い頃から毎日、祖母のてかってさんにウウエペケレを聞いて育った人物。本書は、祖母や村のフチ(おばあさん)から聞き集めたアイヌと神々の38の物語が、読みやすく情感豊かな文章で綴られる。

著者による冒頭解説「アイヌと神々の世界」では、著者の子どもの頃の記憶から当時のアイヌの生活をうかがい知ることができ、ウウエペケレやカムイユカラといったアイヌの口承文芸についてもわかりやすく語られる。すべての話にわかりやすい解説が添えられ、アイヌの文化や習俗、世界観をたっぷり味わえる一冊。文庫化にあたり、『ゴールデンカムイ』のアイヌ語監修を務める研究者・中川裕氏による寄稿を収録。

[内容例]

◎もくじ

アイヌの世界観あふれるドラマチックな物語 中川裕	002
アイヌと神々の世界	017
◆神々と人間の昔話	
身代わりの美女	034
怪鳥とくすり水	046
クマと狂ったサル	052
カラスと赤ん坊	058
子どもと遊んだ神	068
村おさは化け物	075
犬は聞こえた	095
鬼の岩屋	105
水の井戸	114
へびの血	126
二羽のカラス	134
私は十三人兄弟の末っ子	173
羽毛の海	180
黒ギツネのイナウ	192
三本足の大グマ	207
私の名はイクレスイエ	221
狩小屋でクモ神が夢を	244
ススメの恩返し	253
人食いじいさんと私	263

クマ神の横恋慕	282
消えたちんちん	298
着物の片袖	311
カツラの木の女神	322
魔法の小袖	335
エゾマツの女神	350
からっぽやみの女	368
恋路のじやま	382
淫乱の群れ	392
リスと平原の化け物	404
七人目の婿	419
四つ爪のクマ	438
キニンニの女	452
女のたしなみ	462
妻が私に筋子をかけた	485
バナンベとバナンベ	502
バナンベと小鳥	509
打ち出の小づち	517
国造りの神とフクロウ	534
アイヌの民具 図版索引	538

◎神々と人間の不思議な 38 の物語

身代わりの美女

と丁寧ていねいに道順みちぐんを教えてくださいました。途中で「晩ばんだけどこかに泊とどまらなければならぬ」といふことでした。

私は父に教えられたとおりに、自分たちが暮らしているコタンコタン村に流れている川を、上流の方へ向かってとんとんと歩いていきました。いつも狩りに来る場所も通りすぎ、川が沢になり、沢を登りつめて別の川が見える峠の上まで来ました。私は山の上から方角を確かめて、やや広い小さな沢まで下つていき、そこで泊まることにしました。そこは父が教えてくれたとおり、昔、父が泊まっていたらしい木の皮で屋根をふいた小屋がありました。私はずり落ちかけた木の皮を重ねなおし、一晩ぐらいは泊まれるようにしました。

夕食が終わるころにはすっかり日が暮れてしまい、さて寝ようかなと思っていると、外で人間らしい足音が聞こえました。そして、入口の方から人間の声で、「エヘン、エヘン」とせきばらいの声をしたので、私は、

「誰だか知らないけど、どうぞお入りください。」

と返事をしました。すると一人の女が、それも美しい娘が入ってきたのです。その娘の顔を見て私は驚きました。コタンでも大勢の娘がいて、美人もたくさんいると思っただけですが、見たことも聞いたこともないような美しさです。私はそ

私には父がいて母がいて、何不自由なにぞじゆうのない暮らしをしていて一人の若者わかぢでした。

ある日のこと、父が、

「私は若い時に、石狩川の中ほどにいる仲よしの物持ちに私の宝物を貸した。お前にそれを取りにいつてきてほしいものだ。あの宝が息子であるお前の手もとに戻ると、お前は国中で並ぶ者がいない物持ちになることができるであろう。」

と私に言いました。このように父が一人息子の私に何も何回もいうので、私はある日そこへ行くことに決めました。すると父は、

「石狩川の中ほどへ行くのには、このように行くに近いものだ。」

35

身代わりの美女

34

◎すべての物語にガイドとなる解説入り

解説

「身代わりの美女」から「妻が私に筋子をかけた」(485ページ)までの各話は、「神々と人間の昔話」です。たいていのウラエベケレ(昔話)は、「私は狩りの名人で……」と話が始まりますが、この昔話にはそれが一言も出ていません。

父が古い時代に貸してあった宝物を返してもらいたいという、何らかの形で行き来する理由になるように、宝物を貸したり借りたりしたという話はしばしば昔話に出てきます。この場合の宝物というのは、本州から渡ってきた、作りだけ美しく見せたイコロ(宝刀)です。

一本あれば結婚に持つていき、お嫁さんをもらせる宝刀を、薪を背負うように束にして持つてきてくれたという話は、それほどたくさんお礼を持ってきたという事です。

一枚の葉で人間も死ぬ猛毒をもつトリカブト姫にかかるとは、丸木舟を造る材料のような太い蛇も、簡単に死んでしまいます。

たいていの話の中で、助けられた娘は助けられた若者の妻になりますが、これは「夫多妻とかの風習ではなしに、命の恩人に対する最高のお礼になったのでしょう。それと、このように台法的な形で美人を妻に迎えられることは、一種のあこがれであり、願望であつたと思えます。

神との結婚は、神は中年を過ぎると一足先に神の国へ帰る、後から人間である夫や妻に、死という方法で神の国へ来てもらいます。それは、神の国で新たな命が復活した時、相手かよぼよぼではいけません。それで、まだまだ元気のあるうちに神の国で、「ソノウウコロ シノウコロ(本当の結婚、真実の結婚をしよう)」ということになっているのです。

アイヌが死んだ場合に「神タナモシリ」といって、この国土とまったく同じ国土が、現在の国が表側とすれば、裏側にあると信じています。普通は、死後その国の裏側の国へ行くのですが、神と結婚したらそこへは行かずに、神の国へ行くものと考えているのです。

■アイヌの民族 ■イコロ(宝刀) イ(女)、コロ(狩)、アイヌ自身の手で作れない刀の類(時には斧なども)をイコロとして大切にしました。刀身はシサム(和人)との戦いが激しくなると、交易の際、相手が竹光にしました。結婚の時、結婚の品にも使われました。



45

身代わりの美女

44

○書誌データ

書名：アイヌと神々の物語 発売日：2020年3月13日
 著者：萱野茂 定価：1210円(本体価格1100円) 判型：文庫判並製
<http://www.yamakei.co.jp/products/2820490450.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心に、国内外で山岳・自然科学・アウトドア等の分野で出版活動を展開。さらに、自然、環境、ライフスタイル、健康の分野で多くの出版物を展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479)を
持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「旅・鉄道」「学術・理工学」を主要テーマ
に専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラ
ットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：綿

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yamakei.co.jp

<https://www.yamakei.co.jp/>